

注 意 報

農技セ第5511号
令和元年7月30日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病虫害発生予察情報について

令和元年度農作物病虫害発生予察注意報第3号を公表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予察注意報第3号

令和元年7月30日
徳 島 県

7月第3半旬～第5半旬のフェロモントラップ定点調査において、シロイチモジヨトウの雄成虫誘殺数が平年に比べて多く推移していることから、今後、野菜類と花き類で幼虫による被害の拡大が予想されるので、注意報を発令します。

現地においては発生状況に注意するとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：野菜類(特にネギ、ブロッコリー、カリフラワー)、花き類
病虫害名：シロイチモジヨトウ

1.発生地域 県内全域

2.発生時期 8月上旬～

3.発生程度 多(前年より多く、平年より多い)

4.注意報発令の根拠

(1)フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において、7月第3半旬より誘殺数が増加し、7月第3半旬～第5半旬の誘殺数が406頭と平年(102頭)の約4倍となっている(図1)。

(2)7月26日に実施した秋冬ネギ現地9圃場の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生虫数が0.2頭と、平年(18.6%、0.7頭)並の発生である。

(3)高松地方气象台が7月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、日照時間は多く、降水量は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

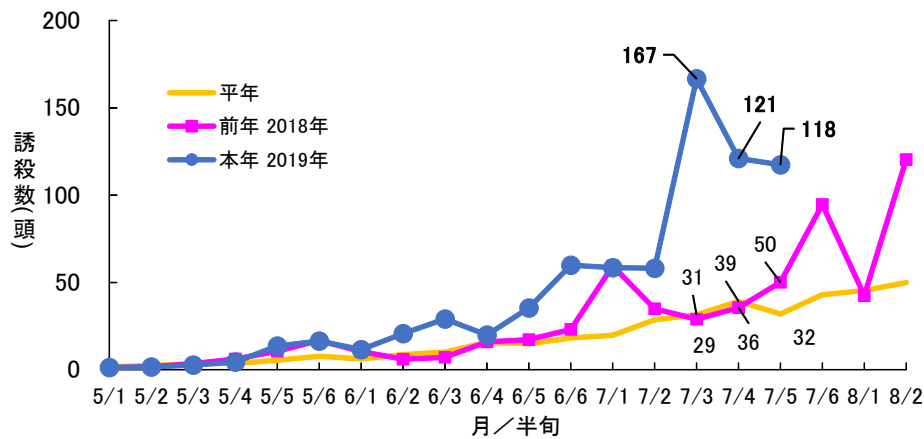


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜園場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

5. 生態・形態・被害作物等

(1) 生態

年間の発生回数は5～6回。幼虫の発生量は8～10月に最も多くなる。25℃での各生育ステージの期間は、卵が3日、幼虫が17日、蛹が9日で、1世代に要する期間は約30日程度である。

(2) 形態

卵：雌は数十～数百粒からなる卵塊を数回に分けて産卵し(1頭当たり平均1,000粒)、卵塊は黄白～灰白色の鱗毛で覆われる(図2)。

幼虫：幼虫の体色は若齢～中齢は淡緑色であるが、老齢幼虫は淡緑～褐色と個体変異が大きい(図3, 4)。老齢幼虫の体長は30mm程度で、土中で蛹化する。

成虫：前翅長は12mm程度、前翅は灰褐～黄褐色で、比較的幅が狭く、前翅の中央部にくすんだオレンジ色の円形の斑紋がある(図5)。

(3) 寄主植物

広食性で、50種類以上の植物を加害し、特にネギでの被害が問題となっている。

野菜類：ネギ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン、レタス、ホウレンソウ、キュウリ、スイカ、トマト、ピーマン、イチゴなど

豆類：ダイズ、インゲンマメなど

花き類：カーネーション、宿根カスミソウ、キク、トルコギキョウ、スターチスなど

(4) 被害状況

野菜、花き類の葉、花蕾、花卉、果実を食害する。狭い場所に潜り込み内部から食害するケースが多いが、自ら葉を綴ってその内部から食害する場合もある。

ネギでは、幼虫が葉身内に食入し、内部から外皮を残して食害するため、被害株は葉身の先端部がかすり状になる(図4, 6)。豆類では葉裏から表皮を残してかじり、白変葉になる。花き類では、生育初期に葉鞘に食入するため展葉した葉がすでに食害を受けていることがある。



図2 ニラに産下された卵塊



図3 シロイチモジヨトウ幼虫



図4 ネギを加害する幼虫



図5 シロイチモジヨトウ成虫



図6 ネギの被害

6. 防除法等

- (1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫期に防除する。
- (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。
- (3) 同一系統の薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける(表1)。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 シロイチモジヨトウに登録のある農薬(登録内容：2019年7月28日現在)

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRACコード*
ねぎ	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	スピノシン	5
ねぎ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	マクロライド	6
ねぎ	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	マクロライド	6
ねぎ	エコマスターBT	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	BT	11
野菜類	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	-	BT	11
野菜類(はくさいを除く)	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	BT	11
ねぎ	マッチ乳剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	ベンゾイル炭素(IGR殺皮剤)	15
ねぎ	ファルコンフロアブル	4000倍	収穫前日まで	2回以内	ジアシルヒドランジメ(IGR殺皮剤)	18
ねぎ	マトリックフロアブル	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジアシルヒドランジメ(IGR殺皮剤)	18
ねぎ	ロムダンフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジアシルヒドランジメ(IGR殺皮剤)	18
花き類・観葉植物(きく除く)	ロムダンフロアブル	1000倍	発生初期	5回以内	ジアシルヒドランジメ(IGR殺皮剤)	18
ねぎ	ハチハチ乳剤	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェニキシベンジルアミド	21
ねぎ	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ジアミド	28
ねぎ	コテツフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	ピロール	13*
ねぎ	プレオフロアブル	1000倍	収穫3日前まで	4回以内	プロベニルオキシフェニル	UN*

※IRACコード

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。本コードが異なる薬剤を使用することで、同一系統の薬剤の連用を防ぐことが可能である。